

## 岩手県における生食用露地ホウレンソウの栽培法

長嶺達也

(岩手県農業研究センター 東北農業研究所)

Open field cultivation method of marketable spinach for raw food in Iwate Prefecture

Tatsuya NAGAMINE

(Iwate Agricultural Research Center, Northern District Agricultural Research Institute)

### 1 はじめに

本県の主要野菜であるホウレンソウは、生産農家の高齢化や減少により出荷量が低迷し、市場におけるシェアの低下により販売状況は厳しさを増している。

露地栽培は、施設が不要でビニール展帳の労力もかからないため、県内主要産地では雨よけ栽培の生産量減少分を補完するものとして比較的栽培がしやすい6月及び10月どり作型について導入を進めているが、雨よけ栽培と比較して収量・品質が不安定になりやすいことが課題であった。

そこで、本県で生食用露地ホウレンソウの安定的な生産が可能となる栽培法が確立されたので報告する。

### 2 試験方法

#### (1) 試験1 品種選定 (6月どり)

サイクロン、ネオサイクロン(トーホク)、トリトン、晩抽サンホープ(カネコ種苗)、SCO-114(サカタのタネ)、サマービクトリー7(渡辺採種場)を供試した。

#### (2) 試験2 品種選定 (10月どり)

パワーアップセブン(ナント種苗)、プログレス(サカタのタネ)、チーター(カネコ種苗)、弁天丸(タキイ種苗)、バルチック7(渡辺採種場)を供試した。

#### (3) 試験3 栽植距離

条間を現地慣行の15cmとし、株間6cm、8cm、10cmとした場合の収量性について検討した。

#### (4) 試験4 施肥試験

10aあたりの窒素成分を、12kg、15kg、18kg、21kg、24kgとした場合について検討した。

試験に使用した圃場の作付前の土壌分析値は pH6.6、EC0.05ms。堆肥は作付前年に2t/10a施用した。

#### (5) 共通する主な耕種概要

供試品種：試験2～4については、6月どりはサイクロン、10月どりはパワーアップセブンを使用。

施肥量：N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O 2015年15-12-12kg/10a、2016年21-12-12kg/10a。肥料はN555と硫酸を使用。

栽植様式：株間8cm、条間15cm

収穫調査：出荷規格を満たす草丈30cmを目安に収穫した。

試験場所：東北農業研究所(岩手県軽米町)圃場

### 3 試験結果及び考察

#### (1) 試験1 品種選定 (6月どり)

6月どり作型において供試した品種のうち、‘サイクロン’、‘トリトン’、‘ネオサイクロン’の収量が高く、適していると考えられた。

‘晩抽サンホープ’、‘SCO-114’、‘サマービクトリー7’は生育が早く比較的収量が高いものの、生育期間60日前後で抽台が発生した(表1)。

#### (2) 試験2 品種選定 (10月どり)

10月どり作型において供試した品種のうち、‘プログレス’の収量が高く適していると考えられた。

‘パワーアップセブン’、‘バルチック7’は‘プログレス’に次いで収量が高いものの、‘パワーアップセブン’は生存率がやや低く、‘バルチック7’は抽台が発生する場面があった。‘チーター’、‘弁天丸’は収量が低く、この作型には適していないと考えられた(表2)。

#### (3) 試験3 栽植距離

露地ホウレンソウの出荷規格は、1袋200gで4本詰めであるため、大きすぎる株は袋に詰めづらく、歩留まりが悪くなる。

株間を6cmとすると、出荷規格に適する大きさの株が得られた。この場合、株間8cm、10cmとした場合に比べて調製重は最も軽くなるが、栽植密度が高く、面積あたりの株数が確保できることから、収量が高いと考えられた(表3)。

#### (4) 試験4 施肥量

岩手県の雨よけ栽培の施肥基準は、窒素成分で9kg/10aであるが、露地栽培は栽培期間が長いことや、降雨による流亡が想定されることから、施肥量は多くなるものと考えられる。

窒素成分を18kg以上/10aとした場合、出荷規格を満たす草丈(28cm)を安定的に確保できた。窒素成分12kg及び15kg/10aの場合は、草丈が出荷規格に満たなかった(図1)。

4 まとめ

岩手県において、露地栽培でホウレンソウを安定生産するために適した品種は、6月どりでは‘サイクロン’、‘トリトン’、‘ネオサイクロン’。10月どりでは‘プログレス’

の収量が高く、適している。

栽植距離について、条間 15cm の場合、株間 6cm とすることで、出荷規格に適する大きさの株が得られるとともに、収量を確保できる。

施肥量は、窒素成分として 18kg 以上/10a とすると、出荷規格である 28cm の草丈を確保できる。

表1 6月どり品種の収量性等

品種	試験年次	草丈 (cm)	調整重 (g/株)	抽台株率 (%)	葉色 (SPAD)	収穫までの 日数 (日)	*生存率 (%)	収量 (kg/10a)
サイクロン	2015	30.0	64.3	0.0	63.5	69	93.0	4,983
	2016	29.9	66.2	0.0	65.2	56	95.0	5,241
トリトン	2015	30.4	79.8	0.0	58.3	63	90.0	5,306
	2016	30.1	59.5	0.0	57.1	56	95.0	4,710
ネオサイクロン	2015	30.4	75.3	0.0	63.2	63	91.3	5,731
	2016	30.8	59.4	0.0	60.9	56	95.0	4,702
晩抽サンホープ	2015	29.6	66.6	22.5	60.0	63	87.5	3,767
	2016	29.7	56.3	0.0	55.0	50	95.0	4,457
SCO-114	2015	30.4	49.0	2.5	50.9	54	91.3	3,638
	2016	30.9	58.2	0.0	46.4	50	95.0	4,607
サマービクトリー7	2015	30.2	66.1	22.5	57.6	63	92.0	3,926
	2016	30.6	56.9	0.0	54.2	48	95.0	4,505

\*生存率 は種数に対し、収穫時に生存していた株

表2 10月どり品種の収量性等

品種	試験年次	草丈 (cm)	調整重 (g/株)	抽台株率 (%)	葉色 (SPAD)	収穫までの 日数 (日)	生存率 (%)	収量 (kg/10a)
パワーアップセブン	2015	33.8	49.8	0.0	51.7	52	68.2	2,832
	2016	30.3	41.6	0.0	52.1	44	85.0	2,943
プログレス	2015	32.4	43.6	0.0	49.5	46	90.9	3,300
	2016	29.6	42.2	0.0	52.7	42	95.0	3,341
チーター	2015	33.4	30.6	15.0	40.4	37	86.4	1,875
	2016	31.8	20.9	0.0	44.4	34	90.0	1,567
弁天丸	2015	33.8	30.0	0.0	46.6	46	86.4	2,163
	2016	30.3	38.8	0.0	49.9	42	90.0	2,906
バルチック7	2015	33.0	39.8	5.0	36.7	37	95.5	3,012
	2016	30.6	37.5	0.0	38.2	37	95.0	2,886

表3 栽植距離と収量性の関係

作型	試験区 (株数/10a)	試験年	調整重 (g/株)	草丈 (cm)	収量 (kg/10a)
6月 ど り	株間6cm	2015	55.0	29.8	6,111
	(111, 111)	2016	57.1	30.2	6,344
	株間8cm	2015	64.3	30.0	5,358
	(83, 333)	2016	66.6	30.3	5,549
10月 ど り	株間10cm	2015	63.3	30.3	4,219
	(66, 666)	2016	81.9	30.4	5,459
	株間6cm	2015	50.4	32.8	5,600
	(111, 111)	2016	40.1	30.4	4,456
10月 ど り	株間8cm	2015	52.8	33.8	4,400
	(83, 333)	2016	41.6	30.3	3,467
	株間10cm	2015	64.7	32.9	4,313
	(66, 666)	2016	51.5	30.4	3,413

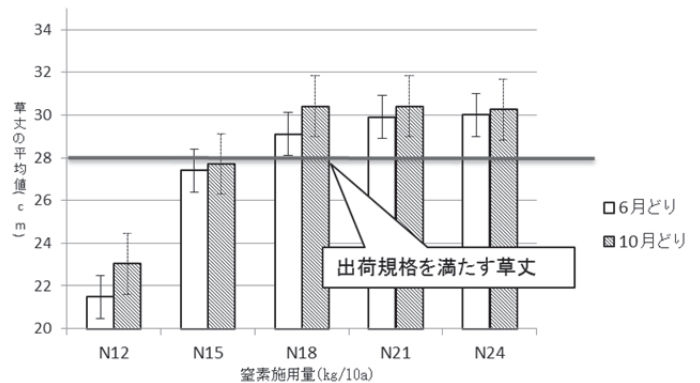


図1 施肥量が草丈に及ぼす影響